



黒岩保美「雪覆いの印象的なDS1177、桐ヶ瀬」
1952年©Hisako Kuroiwa

鉄道を愛するすべての人びとへ 蒸気機関車の魂が今、走り出す。

写真展・永遠の蒸気機関車 くろがねの勇者たち

Steel and Steam: Unforgettable Steam Engines in Photographs

2002年11月26日[火] ▶ 2003年1月19日[日]

- 会場 東京都写真美術館 2階展示室
 ■主催 永遠の蒸気機関車展実行委員会／東京都／東京都写真美術館／読売新聞東京本社／美術館連絡協議会
 ■後援 国土交通省／鉄道友の会／(財)東日本鉄道文化財団／JR東日本／JR貨物／日本鉄道写真作家協会／講談社
 ■助成 UFJ信託文化財団
 ■協賛 JR東日本／モデルス井門／富士写真フイルム／ニコン／キヤノン販売／ネコ・パブリッシング／JTB／花王
 ■協力 交通博物館／東京富士美術館／光村印刷／東武鉄道／天賞堂／サッポロビール／写真弘社／東京スタジオ
 フォト・ギャラリー・インターナショナル

- 交通機関/JR恵比寿駅東口改札より徒歩約7分 ■開館時間/10:00～18:00(木・金は20:00、入館は閉館の30分前)
 ■休館日/毎週月曜日(休館日が祝祭日の場合は翌日)、12月28日～1月4日
 ■観覧料/一般500(400)円、学生400(320)円、中高生・65歳以上250(200)円()内は20名以上の団体料金。
 東京都写真美術館友の会会員、小学生以下及び障害をお持ちの方とその介護者は無料。第3水曜日は
 65歳以上無料(証明できるものをご提示ください) (社)企業メセナ協議会認定事業

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 電話03-3280-0099 URL: <http://www.tokyo-photo-museum.or.jp>



東京都写真美術館
恵比寿ガーデンプレイス内

東京都写真美術館では蒸気機関車をテーマにした写真展「永遠の蒸気機関車 くろがねの勇者たち」を開催します。

19世紀初頭のイギリスで実用化され、その後一世紀半以上にわたり鉄道史を牽引する重要な動力として活躍した蒸気機関車。近代化を推進していた日本でも1872(明治5)年に新橋―横浜間で鉄道が開通すると、新しい交通機関としての鉄道の役割がいかに大きなものであるかを認識する契機となりました。

鉄道よりやや遅れて登場した写真術は、これら鉄道史をいざとったさまざまな蒸気機関車たちを記録にとどめてきました。本展覧会では、19世紀中葉から現代まで、国内外の著名な写真家たちが写しとめた蒸気機関車を紹介します。鋼鉄の塊であるにもかかわらず、脈打つようなリズムにあふれ、美しい表情やしぐさを持つ蒸気機関車たち。その勇姿は誕生以来、世界中に熱心なファンを生み出し、ほぼ任務を終え姿を消した今もなお人びとの心のなかに懐かしい思い出として走り続けています。黎明期から現代にいたるまで、さまざまな蒸気機関車たちを写真によって一堂に会する本展は、間もなく200年を迎える鉄道史をふりかえる貴重な機会となるでしょう。



西尾克三郎「形式C53、真取機関区」1938年12月25日 ©Tatsuko Nishii

写真展・永遠の蒸気機関車 くろがねの勇者たち

Steel and Steam: Unforgettable Steam Engines in Photographs



島田謹介「釜石線の列車」1950年頃(東京都写真美術館蔵)



岩崎・渡邊鉄道コレクションより「1号機関車 形式150」1871年(交通博物館蔵)



武林盛一「札幌駅」1871年頃(東京都写真美術館蔵)



名取洋之助シリーズ(中国)より 1933年頃(東京都写真美術館蔵)



広田尚敬「宗谷本線 名寄 C5550」1973年12月(作家蔵)



白井茂信「石北本線常紋信号場」1960年代 ©Setsuko Usui



アンドレ・ケルテス(ムドン、フランス) 1928年(東京都写真美術館蔵)

■ギャラリートーク

日時=2002年12月22日(日) 15:00-17:00

ゲスト=広田尚敬(日本鉄道写真作家協会会長・写真家)・名取紀之(『Rail Magazine』編集長)
 会場=東京都写真美術館 2階展示室(展覧会チケットをお持ちの方は無料)

■展覧会関連セミナー・ワークショップ

鉄道の歴史をはじめ、世界の鉄道事情や技術を支える人びと、さらには絵画、文学などさまざまな視点からディスカッションしながら鉄道を考えます。

●Aコース=2003年1月12日(日) 13:00-18:00

講師=青木栄一(駿河台大学文化情報学部教授・交通地理学)／齋藤 晃(慶應義塾大学鉄道研究会三田会会長・蒸気機関車研究)／齋藤雅男(新幹線及び人間科学専門家)

●Bコース=2003年1月13日(月) 13:00-18:00

講師=小池 滋(英文学者)／菅 建彦((財)東日本鉄道文化財団専務理事)／西野保行(元東京都交通局理事・技術士／建設部門)／齋藤雅男(新幹線及び人間科学専門家)

□定員/各コース30名

□参加費/各コース2,000円(展覧会チケット代含む)

□申込方法/往復はがきに希望コース、住所、氏名、年齢を明記のうえ下記までお送り下さい。応募多数の場合は抽選となります(12月23日必着)。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 東京都写真美術館「永遠の蒸気機関車展」ワークショップ係

■フロアレクチャー

毎月第2・4金曜日午後2時より展示解説を行います(展覧会チケットをお持ちの方は無料)。